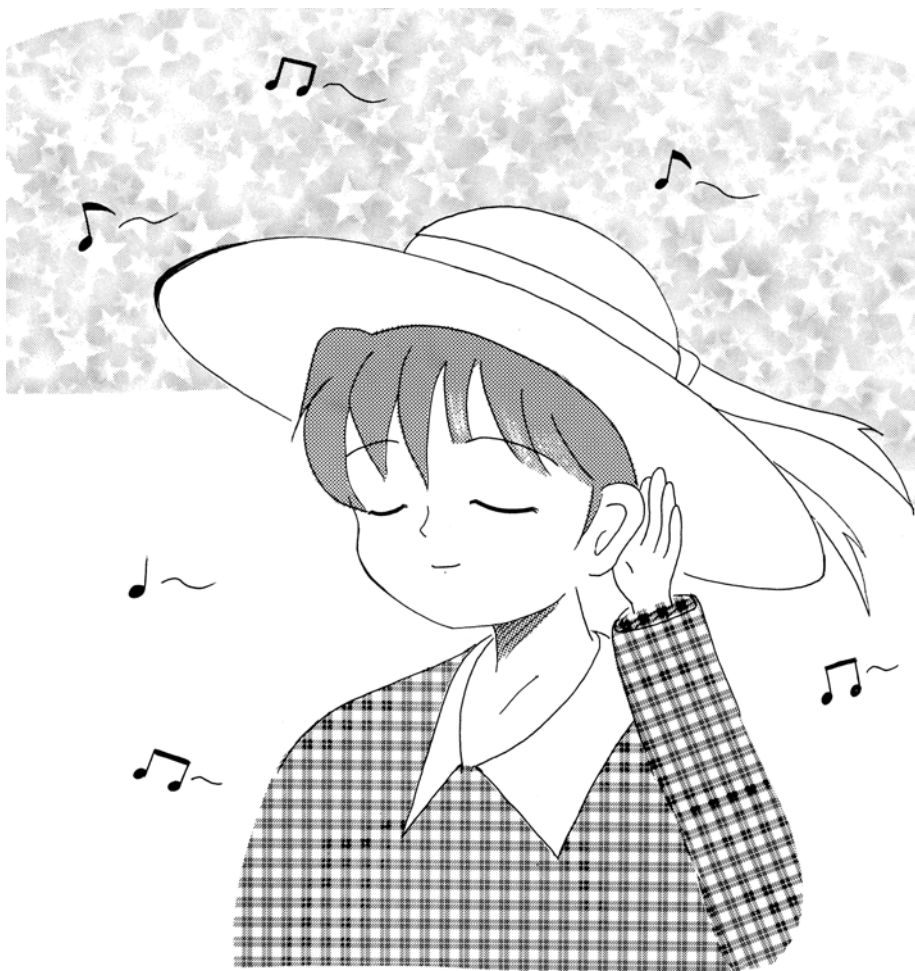


アンサンブル ソラ
Ensemble Solla

4



2013-08-04

ごあいさつ

Ensemble SolLa (アンサンブル ソラ) の第 4 回演奏会にようこそ。今回は、2 重唱に加えて 3 重唱も、さらにバイオリンとチェロの加わったアンサンブルもと、少し大きな編制になりました。また、休憩後のステージは、小さなレクチャーコンサートを試みます。

Ensemble SolLa では、二人以上の歌や歌と楽器など複数の人で演奏するアンサンブルの活動をしています。いちおうクラシック音楽の枠組み内で、広いジャンル、時代の音楽を演奏していきたいと思っています。(そうでないと演奏する曲がないというせいもありますが)。

今回のテーマは、特にメロディーと言葉です。同じメロディーでも言葉によって聞こえ方は変わります。歌手にとっては歌い方も変わります。そして、ピアノは同じ音符を弾いていても、歌と言葉に応じて演奏が変わります。唱歌の場合、訳詞でなく全く異なる歌詞がつけられると、同じメロディーでも別の曲のようになります。こういった言葉と音楽の関係を考えながら聴くことを楽しんでいただければ幸いです。

プログラム

1. シューマン (1810-1856)

- 《スペインの歌》 op. 74 (1849) より
- 《告白》 op. 74-7
- 《メランコリー》 op. 74-6
- 《夜に》 op. 74-4
- 《ロマンスとバラード 4》 op. 64 より
- 《悲劇》 op. 64-3 (1841)

Schumann, Robert, 1810-1856

- Spanisches Liederspiel, op. 74
- Geständnis
- Melancholie
- In der Nacht
- Romanzen und Balladen, iv, op. 64
- Tragödie

2. シューベルト(1797-1828)

- 《結婚式の焼き肉》 D930 (1827)
- 原語版, オリジナル日本語版

Schubert, Franz 1797-1828

- Der Hochzeitbraten

休憩

3. ことばを超えて来たメロディーたち ～ 唱歌・童謡編 お話と演奏

プログラムノート

(宮澤彰, 歌詞翻訳: 宮澤 彰, 宮澤友子)

1. シューマン Robert Schumann, 1810-1856 が女声男声の組み合わせで出版した 2 重唱曲集は, SolLa2 で演奏した op.34 (1840, 出版 1841) と SolLa3 で演奏した op.78 (1849, 出版 1850) だけである。しかし, ほかにいくつかの曲集の中に女声男声の 2 重唱曲が入っている。特に 1849 年, シューマンは独唱や重唱を組み合わせて曲集を作るという新しい試みを行っていた。3 月に書いた op.74《スペインの歌》Spanisches Liederspiel, 9 月の op.101《ミンネの歌》Minnespiel, 11 月の op.138《スペインの愛の歌》Spanisches Liebeslieder の 3 つの曲集がそれらである。《スペインの歌》と訳したが, Liederspiel という言葉は, シューマンの 1 世代前にはある種の軽喜歌劇を指していた。シューマンの Spanisches Liebeslieder や Minnespiel には, 筋立てというほどのものはないので「劇」と訳すのは適切でないが, ある程度の構成をもったまとまりという意図が入っているであろう。op.74 は, 当時ドイツで人気の詩人ガイベル Emanuel von Geibel, 1815-1884 (ちなみに《流浪の民》op.29 の詩もガイベル) が, スペインの詩から訳詞した『スペインの民謡とロマンツェ』Volkslieder und Romanzen der Spanier, 1843 から作曲された。出版された版では, 混声の 4 重唱 2 曲, 女声 2 重唱 3 曲, 混声 2 重唱, 男声 2 重唱, テノール独唱, ソプラノ独唱各 1 曲で, 付録にバリトン独唱が付いている。ただ, 1849 年 4 月に初演された時点では 12 曲で, 順番も出版された op.74 とは異なっていたと考えられている。今回は, その Liederspiel の「ミニ版」ということで, 独唱を 2 曲と 2 重唱を一曲。

《告白》は, op.74 では第 7 曲に入っているテノール独唱曲。青春の恋であろうか。

Geständnis

Also lieb' ich Euch, Geliebte,
Daß mein Herz es nicht mag wagen,
Irgend einen Wunsch zu tragen,
Also lieb' ich Euch!

Denn wenn ich zu wünschen wagte
Hoffen würd' ich auch zugleich;
Wenn ich nicht zu hoffen zagte,
Weiß ich wohl, erzürnt' ich Euch.

Darum ruf' ich ganz alleine
Nur dem Tod, daß er erscheine,
Weil mein Herz es nicht mag wagen,

告白

かくもあなたを愛しているから 恋人よ
私の心にはあえてできないことがある
抱くことのできない望みがある
かくもあなたを愛しているから。

なぜなら もしあえて望んだら
同時に希望を抱いてしまうから
もし希望を抱くことをためらわなくなったら
あなたを怒らせてしまうとかわっているから

それゆえ私はたったひとりで呼ぶしかない
現れるかもしれない死を
なぜなら 私の心はあえて

Einen andern Wunsch zu tragen,
Also lieb' ich Euch!

ほかの望みを抱くことはない
かくもあなたを愛しているから。

原調 G→演奏 E

《メランコリー》は、op.74 での第 6 曲。出口の見えない憂鬱。

Melancholie

Wann erscheint der Morgen,
Wann denn der mein Leben
löst aus diesen Banden?

Ihr Augen vom Leide
so trübe saht nur Qual für Liebe
saht nich eine Freude,
saht nur Wunde auf Wunde,
Schmerz auf Schmerz mir geben,

Und im langen Leben
Keine frohe Stunde.
Wenn es endlich doch geschähe,
dass ich sah' die Stunde,
wo ich nimmer sähe!

メランコリー

いつ朝が来るのか、
いつになったら！私の日々は
この束縛から自由になる？

悲嘆に暮れ泣きはらした目よ、
お前は 愛のために苦痛を見、
喜びのかけらも見ず、
傷の上に傷を認めただけ、
痛みの上に痛みが私に加えられ、

この長い年月に
楽しい時は ひとときもない。
しかし もし ついにその時が訪れても、
私が目にすることは
決してありはしない！

原調 d→演奏 c

《夜に》は、op.74 での第 4 曲。ソプラノとテノールの 2 重唱。2 重唱とは
いっても、ソプラノが詩の最後の行まで歌い終わろうとするところで、よ
うやくテノールが冒頭のソプラノと同じメロディーを歌い出す。あまり例
を見ない構成の 2 重唱となっている。

In der Nacht

Alle gingen, Herz, zur Ruh,
alle schlafen, nur nicht du.
Denn der hoffnungslose Kummer
scheucht von deinem Bett den Schlummer,
und dein Sinnen schweift in stummer
Sorge seiner Liebe zu.

夜に

あらゆるものが休息へと向かった、
皆眠りに入るが、あなたにはその一瞬もない。
なぜなら 絶望的な心の苦しみが
あなたの寢床からまどろみを追い払うから、
そして あなたの思いは そのかたの愛へと
無言の不安の中をさまよう。

原調 g→演奏 f

《悲劇》Tragödie は、ハイネ Heinrich Heine, 1797-1856 の詩に作曲され
た短い 3 曲の組曲。メーリケ Eduard Friedrich Mörike, 1804-1875 の詩に
つけられた 2 曲と組み合わせて 1847 年に op.64 として出版されたが、も
とは 1841 年に書かれている。シューマンの 1841 年は、1840 年の「歌の年」
につづく「オーケストラの年」といわれることもある。交響曲第 1 番をは
じめ、第 2 番や第 4 番の一部などを書いた。そして 11 月にはソプラノ、テ

ノールとオーケストラのための《悲劇》を書く。はじめてのオーケストラ伴奏歌曲である。しかし発表されることはなく、結局ピアノ伴奏に直されて op.64 の 3 曲目となった。スコアは世に知られず眠っていたが、1991 年サザビーの競売にかけられて世に出た。それ以前のシューマンの作品リストでは、1841 年に作曲された当時はオーケストラと合唱の曲、とされている。ちなみに、作曲当時同じライブツィヒに住みシューマンと親しかったメンデルスゾーンは、この同じ詩から有名な合唱曲（op.41-2, 3, 4）を作り 1838 年に出版している。

Tragödie / H. Heine

I

Entflieh' mit mir und sei mein Weib
und ruh' an meinem Herzen aus!
In weiter Ferne sei mein Herz
dir Vaterland und Vaterhaus!

Entflieh'n wir nicht, so sterb' ich hier,
und du bist einsam und allein;
und bleibst du auch im Vaterhaus,
wirst doch wie in der Fremde sein!

II

Es fiel ein Reif in der Frühlingsnacht,
er fiel auf die zarten Blaublümlein;
sie sind verwelket, verdorret.

Ein Jüngling hatte ein Mädchen lieb,
sie flohen heimlich vom Hause fort,
es wusst' weder Vater noch Mutter.

Sie sind gewandert hin und her,
sie haben gehabt weder Glück noch Stern,
Sie sind verdorben, gestorben.

III

Auf ihrem Grab, da steht eine Linde,
drin pfeifen die Vögel und Abendwinde,
und drunter sitzt, auf dem grünen Platz
der Müllersknecht mit seinem Schatz.

Die Winde wehen so lind und so schaurig,
die Vögel singen so süß und so traurig,
die schwatzenden Buhlen die werden stumm,
sie weinen und wissen selbst nicht, warum.

悲劇 / ハイネ

I

一緒に逃げて 僕の妻になってくれ
僕の胸で休んでくれ。
僕の心は 遠く離れたところにある
君の祖国からも 家からも。

もし一緒に行かないで 僕が死んだら
君は ひとりぼっち
家に残っていても
知らない土地にいるのと同じだ。

II

春の夜に霜が降りました
淡い青色の 小さな花にも;
花はしおれて 枯れました

1 人の若者が 1 人の乙女を愛しました
2 人の家出を
父も母も 気がつきませんでした。

あちこちさまよった 2 人に
幸運も 希望も訪れませんでした
2 人は死んで 土に帰りました。

III

2 人の墓から一本の菩提樹
そこで鳥たちはさえずり 夕風は鳴る
その緑の木陰に
恋人と座る粉ひきの若者

風が吹く 穏やかに そして不気味に
鳥も鳴く 甘く そしてもの悲しく
おしゃべりな恋人たちは 無口になる
そして涙を流す なぜだかわからずに。

2. 《結婚式の焼き肉》Der Hochzeitbraten という題名だけでも相当変わっていて、そんな曲があるのかと思う人は多いだろうが、シリアスな曲の多いシューベルトの歌曲群の中で、コミカルなこの 3 重唱は異彩を放っている。これが、シューベルトの死の前年、ちょうど《冬の旅》の後半 12 曲を書いていた 1827 年 11 月に書かれたというのは、信じられないほどである。初演は、シューベルトの歌曲のほとんどがそうであるように、シューベルトの友人たちを中心とした内輪の集まりシューベルティアードで行われた。具体的な日はわかっていないが、1827 年 12 月あるいは 1828 年 1 月と推定されている。詩（台本というべきか？）は、ショーバー-Franz von Shober, 1796-1882, シューベルトの友人の一人であり当時シューベルトはショーバーの家に住んでいた。4 部分からなるが、筋書きは単純。i) 明日が結婚式というテレゼ（ソプラノ）とテオバルト（テノール）が、

i) Allegro moderato

Therese

Ach liebes Herz, ach Theobald,
laß dir nur diesmal rathen,
ich bitt' dich, geh' nicht in den Wald.
Wir brauchen keinen Braten.

Theobald

Der Stein ist scharf, ich fehle nicht.
Den Hasen muß ich haben.
Der Kerl muß uns als Hauptgericht
beim Hochzeitschmause laben.

Caspar

Ich bitt' dich, Schatz.

Ich geh' allein.

Sie hängen dich!

Was fällt dir ein!

Allein?

Allein kann ich nicht bleiben, nein.

Nun gut, so magst du treiben.

Wo steckt er denn?

Hier ist der Ort.

gsch, gsch! prr, prr!

Jetzt treibe fort.
Jetzt hier im Kraut.
Jetzt im Gebüsch.
Nur nicht so laut!

Nur immer frisch!

結婚式に焼き肉を出したい。というので森にウサギを密猟しに行き、首尾よくウサギをしとめる。ii) しかし森番のカスパール(バス)に捕まってしまう。iii) そこでテレーゼが賄賂でせめるとカスパールは軟化して、大目に見てやろうということになる。iv) 最後は、結婚式の当日3人でヨーデルを歌って終わる。この曲が書かれたのは、おそらくはシューベルトの仲間たちの中で誰かが結婚して、それを種にした集まりのためだったのではないかと推測されている。また、仲間内でしかわからない楽屋落ちも歌詞の中に含まれていると思われるが、今は知るよしもない。

今日は、この曲をドイツ語で演奏した後に、日本語でもう一度演奏するという他にはない試みをする。日本語は、歌い手たちで今回の演奏のために訳したオリジナル版。原語をなるべく忠実に訳した以下の対訳とは異なる。

i) Allegro moderato

テレーゼ

テオバルト

カスパール

あたしの愛するテオバルト
今回は頼みを聞いて
お願いだから森へ行かないで
焼き肉はいらないから

燧石は鋭い 射ち損じはしない
ウサギはとらなきゃならない
そいつを結婚式のごちそうで
メインディッシュにするんだ。

お願いだから、あなた

一人で行くから

縛り首になるわ!

なんでそんなことを!

一人で行くって?

私一人が残るなんていや

じゃあいいや
追い立て役をやってくれ

どこにウサギがいるの?

このあたりだ

しっしっ、プルプル!

さあ 追い立てろ
草むらに來たぞ
茂みの中だ
大声を出すな

行け行け!

Therese
gsch! gsch!

pr, pr

nur immer frisch,

nur aufgepasst.

Was du nicht hörst!
gsch, gsch! pr, pr.
O Lust, ein Jägersmann zu sein!

gsch, gsch!
Ein Has', ein Has'!

Theobald

Nur still!

Jetzt treibe dort.

Jetzt hier im Kraut.
Jetzt im Gebüsch.
Nur nicht so laut!
nur nicht so laut,

Still! Still!

Da sprach ja wer?

Es wird der Wind
gewesen sein.

Da liegt er schon!

Welch Meisterschuß,
grad' in die Brust.

O sieh! den feisten,
feisten Rücken,
Den will ich trefflich spicken.
O Lust, o Lust, o süße Jägerlust.

Caspar
Horch! horch!

Potz Blitz,
was soll das sein?

Ich glaub', sie jagen.
Da schlag' der Hagel drein!

Potz Blitz,
was soll das sein?

Potz Blitz,

der kommt nicht aus,
den sperr' ich ein.
der kommt nicht aus,
den sperr' ich ein.

Nun wart', Hallunk,
dich trifft dein Lohn!

Du Galgenstrick, du
Enakssohn,
du Haupthallunk,
dich trifft dein Lohn!

ii) Allegro

Therese

Theobald
Nun ist es aus.

Ich muss ...

Ich will ...

O weh! o weh!
Mit uns ist's aus.

Herr Jäger, seid doch nicht von Stein,
die Hochzeit sollte morgen sein.

O hört, o hört!
Ich muss ...

Ich will ...

O weh! o weh!
Mit uns ist's aus.

Caspar

Halt Diebsgepack! halt!
Den Hasen gebt, die Büchs' heraus.
... in's Loch!
...in's Arbeitshaus!
Ich treib' euch schon das Stehlen aus.

Was kümmert's mich!
Den Hasen gebt, die Büchs' heraus.
... in's Loch!
...in's Arbeitshaus!
Ich treib' euch schon das Stehlen aus.

テレゼ
しっしっ!

プルプル

行け行け

気をつけて!

空耳じゃない?
しっしっプルプル
狩りって楽しいわ!

しっしっ!
ウサギ! ウサギ!

テオバルト

静かに!

今度はあっちだ

草むらに来たぞ
茂みの中だ
大声を出すな!
大声を出すな

静かに 静かに!

誰かしゃべったか?

あれはきっと風に
ちがいない

しとめたぞ!

なんと見事
胸を直撃

見て! なんと
よく肥えた背中
上手に脂をしてやるわ
狩りは楽しい 狩りは楽しい

カスパル
やや!やや!

こんちくしょう
あれは何だ?

絶対狩りをしているぞ
電に打たれちまえ!

こんちくしょう
あれは何だ?

こんちくしょう

逃がしはしない
牢屋に入れるぞ
逃がしはしない
牢屋に入れるぞ

こら待て畜生め
落とし前はつけさせるぞ

このやくざものの
唐変木の
どてかぼちゃのならずものめ
落とし前はつけさせるぞ!

原調 G→演奏 F

ii) Allegro

テレゼ

テオバルト
おしまいだ

おれは ...

あたしは ...

ああ ああ!
おれたちはおしまいだ
猟師の旦那 そんな堅物では
あしたは結婚式なのです
お願い お願い
おれは...

あたしは...

ああ ああ!
おれたちはおしまいだ

カスパル

動くな 盗人ども!
ウサギを出せ、鉄砲もだ
...牢屋行きだ!
...収容所送りだ!
盗人根性をたたき直してやる

知ったことか!
ウサギを出せ、鉄砲もだ
... 牢屋行きだ!
... 収容所送りだ!
盗人根性をたたき直してやる.

Therese

Theobald

Caspar

Mit Most will ich
euch reich verseh'n.

Und ich, ich strick'
euch einen Beutel.

O hört, o hört!

Das Mädchen ist verzweifelt schön.
Nein, nein, 's ist alles eitel.

Und dieser Thaler weiß und blank,
laßt ihr uns geh'n, sei euer Dank.

O hört, o hört!

Das Mädchen ist verzweifelt schön.

iii) Allegretto

Therese

Theobald

Caspar

Ach! statt den
Hasenrücken
muss ich den Jäger
spicken.

Ach! statt den
Hasenrücken
muss sie den Jäger
spicken.

Sie ist doch zum Entzücken,

ich muss ein Aug' zudrücken.
Nun wohl, weil ernstlich ihr bereut,
und 's erstmal im Forste seid,
mag Gnad' für Recht heut' walten,
ihr möget Hochzeit halten.

O tausend Dank!

O lieber Herr,
gebt uns zur Hochzeit doch die Ehr'!

Es sei, ich komme morgen,
für 'n Braten will ich sorgen.

Lebt wohl, lebt wohl bis morgen.

iv) Andantino

Therese, Theobald

Caspar

Das Herz ist frei von seiner Last,
Wir haben Hochzeit und 'nen Gast,
und obendrein den Braten,
so sind wir gut beraten.

Hol' euch der Fuchs, ich wäre fast
Der Bräut'gam lieber als der Gast.
Das ist kein schlechter Braten.
Der Kerl ist gut beraten.

La, la, la ...

Das Herz ist frei von seiner Last,
Wir haben Hochzeit und 'nen Gast,
und obendrein den Braten,
so sind wir gut beraten.

Hol' euch der Fuchs, ich wäre fast
Der Bräut'gam lieber als der Gast,
sie ist kein schlechter Braten.
Der Kerl ist gut beraten.

La, la, la ...

テレゼ

テオバルト

カスバル

あたしはお財布を縫い
ましょう

お酒は十分用意します

お願い お願い!

(必死なあの娘は美しい)
そんなことをしても無駄だ

この白く光ったターラー銀貨
感謝の印に差し上げましょう
お願い お願い!

(必死なあの娘は美しい)

原調 a→演奏 g

iii) Allegretto

テレゼ

テオバルト

カスバル

ウサギの背肉の代わりに
あたしは猟師に油を
ささなきゃならない

ウサギの背肉の代わりに
彼女は猟師に油をささな
きゃならない

あの娘はとても魅力的

ここは目をつぶらにやなるまい
よしわかった 森に来たのは初めてだし
おまえたちは心底後悔してる
今日のところは慈悲をかけてやる
結婚式をばするがよい

おありがとうございます!

ご親切な旦那様

結婚式にご来臨いただけますか!

よろしい 明日は行くでしょう,
肉も用意してやろう

お元気で また明日

原調 e→演奏 d

iv) Andantino

テレゼ・テオバルト

カスバル

心は晴れ晴れ
結婚式が出来るしお客も一人増えた,
その上おまけに焼き肉も
うまいっただものだ

くたばりやがれ
客になるよりは花婿になりたかった
焼き肉は悪くない
やつはうまくやったもんだ。

ラ ラ ラ...

心は晴れ晴れ
結婚式が出来るしお客も一人増えた,
その上おまけに焼き肉も
うまいっただものだ

くたばりやがれ
客になるよりは花婿になりたかった
彼女は悪くないし,
やつはうまくやったもんだ。

ラ ラ ラ...

原調 G→演奏 F

プログラムノート別冊

3. 「ことばを超えて来たメロディーたち」と題して唱歌・童謡の「原曲」をたずねる。

1. 最初の曲は《蝶々》。この曲から始めるのは、これが日本の「唱歌」の第一号というべき曲であるという理由による。

日本の「唱歌」を語るには、伊沢修二 1851-1917 (いざわしゅうじ) の紹介から始めざるを得ない。信州高遠藩士の出身で明治政府の文部省に出仕し、明治 8～11 年 (1875・1878) 米国の師範学校に留学して帰国後、東京師範学校校長や、音楽取調掛 (後の東京音楽学校、東京芸術大学音楽学部) などを歴任、明治初期の教育体制の確立に大きく貢献した人物である。音楽教育の必要性も早くから認識し、留学中に音楽教育家ルーサー・ホワイティング・メーソン Mason, Luther Whiting, 1818-1896 から音楽教育を受け、帰国後、音楽取調掛に任せられるとメーソンを招聘して、『小学唱歌集』1882-1884 などを編集した。自らも《紀元節》(雲にそびゆる高千穂の) などの作曲をしている。後には、国家主義教育の運動、台湾での植民地教育、吃音矯正事業などを行っている。

《蝶々》は、音楽取調掛の編集した『小学唱歌集』初編 1882 に載せられている。この点でも最初の「唱歌」とはいえるが、初編だけで 33 曲もある中で、《蝶々》が第 1 号という理由は他にある。

伊沢が米国に留学する前の明治 7 年 (1874)、彼は、愛知師範学校の校長になった (23 歳!)。その年の文部省年報に愛知師範学校の報告が載せられている。この年設立された同校の最初の入学試験や、カリキュラムの報告に加えて、「将来學術進歩ニ付須用ノ件」として建言を述べている。その内容は、「唱歌ノ益タルヤ大ナリ」しかし教科として定められているだけで、実際には「其科ヲ備フルモノアラズ」(教科として教えているところはない)。だから、まず「本邦固有ノ童謡ヲ折衷シテ二三ノ小謡ヲ」作り、徐々に増やしていくべきだ。という趣旨である。さらにその例として、《椿》、《胡蝶》、《鼠》の 3 つの「唱歌」を載せ、その「技態」というのを細かく説明している。「技態」というのは、今でいうお遊戯で、たとえば《かごめかごめ》のような動きが説明されている。この 2 番目の《胡蝶》の「唱歌」が、

蝶々蝶々。菜ノ葉ニ止レ。菜ノ葉ニ飽タラ。櫻ニ遊ヘ。
櫻ノ花ノ。榮ユル御代ニ。止レヤ遊ベ。遊ベヤ止レ

というもので、後の『小学唱歌集』に載せられた《蝶々》の 1 番と同じ歌

詞である。この詩は、愛知師範学校の教員であった野村秋足 1819-1902（のむらあきたり）が、伊沢に命じられて「童謡ヲ折衷」したものである（「櫻ノ花ノ榮ユル御代ニ」という部分は、わらべうたとは思えないので「折衷」なのだろう）。どのようなメロディーで歌ったものかはわからないが、おそらくはもとのわらべうたのメロディーで唄ったのではないかと推測される。ちなみに、上田信道という人によれば、この《胡蝶》に類似したわらべうたは愛知県はもとより各地で江戸時代から知られていて多数あるという。ただ、それらはひとつおりのメロディーではないので、このとき歌ったメロディーを推測する直接の手がかりにはならない。

遊戯の方については、たとえば大邨芳樹著『音楽之枝折』巻下 1888 の《蝶》の挿絵（たとえば、広島大学図書館所蔵教科書コレクション NJ00030177 にある：<http://opac.lib.hiroshima-u.ac.jp/image/30177/30177007.jpg>）などが、伊沢の《胡蝶》より十数年後のものであるが参考になるだろう。

さて、伊沢は愛知師範学校を 1 年で離れ、前述のように米国マサチューセッツ州ボストン南郊 40km ほどのブリッジウォーター師範学校に留学した。そこでルーサー・メーソンと出会い、日本からの留学生監督としてボストンにいた目賀田種太郎 1853-1926（めがた・たねたろう；政治家）とともに、メーソンから個人的に音楽教育を受けることになった。ルーサー・メーソンは、当時ボストンで初等音楽教育を監督していた人である。システムティックな音楽教育方法を提唱しており、彼の教育方法や教科書は、19 世紀後半北米に広く普及していた。伊沢とメーソンの出会いについては、いくつかの話が伝えられている。ひとつは、ブリッジウォーター師範学校で初年度、唱歌 Vocal music の科目だけ落第であった伊沢が、音楽を何とかしたいと思っていたというもの。また、日本の文部省から唱歌教育のためのお雇い外国人として間接的な打診を受けていたメーソンが、日本からの留学生に会いたがって探していた、という話もある。

いずれにしても伊沢は週末ボストンに通って、メーソン宅で個人的に初等音楽教育をうけた。その中で《Boat Song》という子どもの歌に、日本語をつけるという課題をだされ、愛知師範学校時代の《胡蝶》の詩をあてはめるとうまくいった、という話が伝わっている。後にメーソンが来日して音楽取調掛で『小学唱歌集』を編集したとき、この《Boat Song》＝《胡蝶》を《蝶々》として生かしたわけで、日本の「唱歌」第 1 号といえる理由はここにある。

Boat Song

Lightly row! lightly row!
O'er the glassy waves we go!
Smoothly glide! smoothly glide!
On the silent tide.
Let the winds and waters be
mingled with our melody;
Sing and float! sing and float!
In our little boat!

ボートの歌

オール軽々！オール軽々！
鏡のような海の上 進む！
すーいすーい！ すーいすーい！
静まりかえる 潮の上
風よ 波よ
このメロディーに交われ；
歌いたゆとう！ 歌いたゆとう！
僕らの小さなボートで。

2 番略

このときルーサー・メーソンが教えた《Boat Song》は、ローウェル・メーソン Mason, Lowell, 1792-1872 が編集した“ The Song-Garden : first book ” 1864 などからとってきたものと思われる。ローウェル・メーソン（ルーサー・メーソンと直接の血縁関係はない）は、賛美歌《もろびとこぞりて》や《主よみもとに》の作曲者であり、また、米国の小学校の音楽教育導入を主導した人でもある。ルーサー・メーソンより少し前に、ボストンで活躍していた。“ The Juvenile Singing School ” 1837? など、多くの児童用音楽教科書を編纂している。このローウェル・メーソンの編集した本では《Boat Song》を Spanish song として紹介している。ルーサー・メーソンもそれを根拠にスペインの曲と伊沢に伝えたものと思われる。

既存のメロディーに他の歌詞をつける、あるいは既存の歌詞を別のメロディーで歌うということは、洋の東西を問わず民謡ではごく普通に見られる現象である。西洋の芸術音楽でも、ルネサンス期のシャンソンが Ave Maria になったように古くから行われてはいる。ただ、19 世紀前半の米国の賛美歌では、メロディーや歌詞の融通が特に多かったように感じられる。そして賛美歌と強い関係を持っていた当時の児童用音楽にもこの伝統は強い。たとえば 1830 年にボストンで出版された児童用歌集では、英国国歌《God save the king》のメロディーを ABC の歌に使ったりしている。

伊沢修二は、ルーサー・メーソンからの伝聞に基づき、『唱歌略説』に「詳ニセザレドモ西班牙国ヨリ伝来シテ」と記した。ここから、日本ではこのメロディーはスペイン民謡と説明されてきた。（と言っても、戦後すぐの教科書『一ねんせいのおんがく』1947 は、作曲ドイツ民謡としているが。）しかし、誰が調べてもスペインの曲にこのメロディーは見つからない。英語学者で唱歌の研究もしている櫻井雅人によれば、19 世紀の米国でも、スペイン曲とした楽譜が多い中、ドイツ曲としているものもあるという。米国でローウェル・メイソンらがこの曲の起源をスペインとした根拠は、見つ

かっているらしい。

実のところ，《蝶々》のメロディーを歌ってドイツ人に訊けば、たいていの人がドイツの曲だと答えるだろう。誰もが知っている子どもの歌で、《Hänschen klein》(小さなハンス君)という歌詞と《Alles neu macht der Mai》(五月はものみな新しく)という歌詞の双方で知られている。YouTubeを見る限りでは《Hänschen klein》の方が、若干優勢のようである。

今日の演奏は、今回用のオリジナルアレンジで歌う。

Hänschen klein

Hänschen klein
Ging allein,
In die weite Welt hinein.
Stock und Hut
Steht ihm gut,
Ist gar wohlgemut.
Doch die Mutter weinet sehr,
Hat ja nun kein Hänschen mehr!
„Wünsch dir Glück!“
Sagt ihr Blick,
„Kehr' nur bald zurück!“

Sieben Jahr
Trüb und klar
Hänschen in der Fremde war.
Da besinnt
Sich das Kind,
Eilt nach Haus geschwind.
Doch nun ist's kein Hänschen mehr.
Nein, ein großer Hans ist er.
Braun gebrannt
Stirn und Hand.
Wird er wohl erkannt?

Eins, zwei, drei
Geh'n vorbei,
Wissen nicht, wer das wohl sei.
Schwester spricht:
„Welch Gesicht?“
Kennt den Bruder nicht.
Kommt daher sein Mütterlein,
Schaut ihm kaum ins Aug hinein,
Ruft sie schon:
„Hans, mein Sohn!“

小さなハンス君

小さなハンス君、
たった1人で
広い世の中へ 出て行きました、
杖と帽子が
ばっちりきまって、
すっかり上機嫌、
でもお母さんは 泣きくずれます
もう2度とハンス坊やに会えないかもしれない！
「どうぞあの子に幸運を！」
その目は言っています
「すぐに戻っていらっしやい！」

曇っても晴れても
7年間を
よその土地で過ごしたハンス君。
そこで
気がついて、
急いで家へと向かいます。
でも今はもうハンス君ではありません
そう 1人の大人のハンスです。
浅黒く日焼けした
ひたいと手
彼のことがわかるでしょうか？

1人、2人、3人と
通り過ぎ
彼だとはわかりません。
妹も
「どちら様？」
お兄さんとは気づきません。
お母さんが近づいて来ました
一目見るなり
叫んだのです
「ハンス、私の息子！」

Grüß dich Gott, mein Sohn!“

お帰り、私の息子！」

《Hänschen klein》のこの歌詞は、ドレスデンの教師だった Franz Wiedemann, 1821-1882 が書いたものという。一方の《Alles neu macht der Mai》は、1818 年にミュールハイムの教師だった Hermann Adam von Kamp が書いたものという。ただ、ドイツでの 19 世紀後半の研究によれば、このメロディーは、1808 年には《Fahret hin》という歌詞で出版されており、狩りの歌であった。狩猟に関係した多くのものと同じく、このメロディーもフランス起源である可能性は強い、ということである。

民謡の類はほとんどがそうであるが、歌詞とメロディーは別々に流通するし、それらの本当の「起源」がわかるということは、滅多にない。出版されている楽譜を丹念に調べれば、今ある歌詞とメロディーが組み合わされて出版された楽譜の最古のものを見つけられることがあるが、それも、新資料が見つければ最古でなくなるかも知れない。「原曲」や「起源」というのは、そういったものだと考えてほしい。

2.《夜汽車》は、《蝶々》に較べれば、ずっと新しい「唱歌」である。戦後の新しい教育法は昭和 27 年（1947 年）に制定され、小学校 6 年、中学校 3 年の義務教育制度となった。この新しい制度に合わせて「文部省著作」の音楽の教科書が同年出版された。《夜汽車》は、このうち『四年生の音楽』に採用されたもの。しみりとした情緒的な歌詞にファンは多い。

明治末期から昭和の戦前に出されたいわゆる「文部省唱歌」は、すっかり日本人の作詞・作曲による国産音楽になっていたが、戦後の学制改革と同時に、再び外国の音楽が教科書に取り入れられるようになった。編集委員の中に勝承夫（1902-1981）（かつよしお）という詩人がいて（三善晃作曲の《小鳥の旅》の詩人）、このとき新しく取り入れられた外国曲の多くに作詞している。勝承夫の作詞は、訳詞や翻案というよりは、新しい作詞に近いものが多いようである。

この曲の「原曲」は、ドイツ民謡“Wenn ich ein Vöglein wär”とされている。ドイツのウェブサイト“Historisch-kritisches Liederlexikon”（歴史的・原典研究的歌の事典）が、この曲の歴史的起源も詳しく調べて載せている。それによれば、曲はスイス地方の民謡、詩も 18 世紀半ばには知られていたドイツ語圏の民謡ということになる。ただ、このメロディーでこの詩を楽譜に固定した最初の人、ドイツの作曲家ライヒャルト Johann Friedrich Reichardt, 1752-1814 であることは確定している。1800 年にベルリンで上演されたリーダーシュピール Liederspiel《愛と忠実》Lieb und Treue の中

でこの曲が使われた。Liederspiel（直訳すれば歌劇）は、当時のドイツ語オペラ、ジングシュピール Singspiel（こちらも直訳すれば歌劇）の一種でフランスの軽喜劇のようにポピュラーな歌や詩を取り入れた喜歌劇、ライヒャルトが試みていた。したがって、メロディーも歌詞もすでに識られた民謡などからアレンジされたものである。このメロディーは、スイスに逃げた主人公が歌うため、スイス民謡のメロディーが選ばれたものらしい。

「もし僕が小鳥だったら、そして 2 枚の羽を持っていたら、君のもとに飛んで行くのに」というこの詩は、民謡の常としていろいろなバリエーションがある。最も普及しているのは、ヘルダー-Johann Gottfried Herder, 1744-1803 が『民謡集』Folkslieder, 1788 に載せた版である。この版が後に広く普及した民謡詩集『子供の不思議な角笛』Des Knaben Wunderhorn, 1806-1808 にも転載され、たとえばシューマン（op.43-1, 1840）や、ウェーバー-Carl Maria von Weber, 1786-1826（op.54-6, 1818）も作曲している。ヘルダーの版とは異なる詩も多く、ベートーベン-Ludwig van Beethoven, 1770-1827 の《山からの叫び》Ruf vom Berge (WoO 147, 1816)は、異なる詩での Wenn ich ein Vöglein wär である。これらは、いずれもライヒャルトの使ったこの《夜汽車》のメロディーではない。

《夜汽車》のメロディーの Wenn ich ein Vöglein wär は、19 世紀半ばのドイツの合唱指揮者・作曲家アプト Franz Wilhelm Abt, 1819-1885 が編曲したものが普及している。この曲はアプト作曲としている楽譜も多い。アプトの版は、ピアノ伴奏のソロであるが、これを 2 重唱にしてみた。

Wenn ich ein Vöglein wär

Wenn ich ein Vöglein wär
und auch zwei Flügel hätt', flög' ich zu dir.

Weils aber nicht kann sein,
weils aber nicht kann sein, bleib ich allhier.

Bin ich gleich weit von dir,
bin doch im Schlaf bei dir und kos' mit dir.
Wenn ich erwachen tu,
wenn ich erwachen tu, bin ich allein.

Keine Stund' in der Nacht
in der mein Herz nicht wacht
und dein gedenkt,
daß du mir tausendmal,
daß du mir tausendmal dein Herz geschenkt.

もし僕が小鳥で

もし僕が小鳥で
2 枚の羽があつたら
君のところへ翔んでいけるのに。

そうできない僕は
ここにいます。

君から遠く離れていても、
夢の中ではそばにいて君を愛撫する。
でも目が覚めると
僕はひとりぼっち。

僕の心が眠り込み
君のことを思わない夜などありません、

君が僕に何千回も
君の心を届けてくれているのだから。

なお、このメロディー、ドイツ以外のヨーロッパやアメリカではあまり知られていないようである。

3. 《きらきら星 / ABC の歌》のメロディーは、おそらく誰でも知っているメロディーで、世界的にもこれほど知られているメロディーは少ないだろう。このメロディーの起源がフランスであることは誰もが認めている。

フルド James Fuld という人の書いた“The Book of World-Famous Music”, 2000 によれば、出版された楽譜としては 1761 年のものが最初。歌詞のついた楽譜としては 1774 年ブリュッセルで出版されたものが最初という。(原典は確認していない)。出版年などに関して異説もあるがこの頃にフランス(語圏)で広まった曲であることはまちがいない。

歌詞の方は、“Ah vous dirai-je maman”(あのねお話があるのママ)という 1 行目は共通しているが、多くの異版が存在している。今日演奏するのはフランスのオルガニスト、ヴィドル Charles-Marie Widor, 1844-1937 が伴奏をつけた絵本“Vieilles chansons et rondes pour les petits enfants”, 1884? (幼児のための古歌とロンド)の楽譜によった。この歌詞は現在最も普通にみられる版である。

The image shows a page from a children's songbook. At the top, there is an illustration of a child standing next to a blackboard with a triangle on it, and a small figure of a person. Below the illustration is the musical score for the song "Ah vous dirai-je maman". The score is written for voice (CHANT) and piano (PIANO). The tempo is marked "Allegro." and the time signature is 2/4. The lyrics are in French. The page is decorated with floral borders on the sides and bottom.

CHANT *Allegro.*
Ah vous di - rai - je, ma - man, Ce qui cau - se mon tour - ment!

PIANO
Po - pa veut que je rai - son - ne comme u - ne gran - de per - son - ne;
Moi je dis que les bon - bons Va - lent mieux que la rai - son.

Vieilles chansons et rondes pour les petits enfants
(Wikimedia Commons より)

Ah! Vous dirai-je maman

Ah ! Vous dirai-je maman
Ce qui cause mon tourment ?
Papa veut que je raisonne
Comme une grande personne ;
Moi je dis que les bonbons
Valent mieux que la raison.

あのねお話があるのママ

あのね お話があるの ママ
私は何で困っているかってことよ
パパが私にしてほしいのは
大人の人みたいにちゃんと考えなさい なの
でもね私 キャンディーの方が
そんなことより 大事だと思うの。

2 番以下略

このメロディーは、ヨーロッパ各地や独立直後のアメリカにも流行し、いろいろな歌詞で歌われるようになる。それらの中で 1824 年ドイツのある雑誌に“ A B C D E F G ... ” とつけたイラストがあらわれたのが《ABC の歌》の確認できる初出という。しばらく後、1835 年アメリカのボストンで“ The A. B. C. A German air with variations for the flute. / With an easy accompaniment for the piano forte by L. Lemaire ”(ABC : フルート変奏付ドイツの歌 / L.ルメールによる簡単なピアノ伴奏付) という楽譜が出された。このタイトルも《ABC の歌》になったのはドイツが先であったことを裏付けている。いずれにしても、この後、ABC の歌といえばこのメロディーというほどに普及していった。

一方、イギリスでは、1838 年ロンドンで出版された楽譜で、このメロディーにジェイン・テイラー Jane Taylor, 1783-1824 の詩 “ Twinkle, twinkle, little star ”(きらきら小さな星)(詩は 1806 出版) がつけられた。以来、英米では《ABC の歌》とならんで広く知られた版になっている。日本をはじめ多くの国で、この歌詞の訳詞、翻案が、“Ah vous dirai-je maman”のメロディーと結びついている。

Twinkle, Twinkle, Little Star

Twinkle, twinkle, little star,
How I wonder what you are.
Up above the world so high,
Like a diamond in the sky.
Twinkle, twinkle, little star,
How I wonder what you are.

きらきら小さな星

きらきら小さな星
あなたはいったい何なのでしょう。
地面からそんなに高く
夜空でダイヤモンドのような
きらきら小さな星
あなたはいったい何なのでしょう。

2 番以下略

しかし、独自の歌詞がつけられている国も少なくない。ドイツでは、“Morgen kommt der Weihnachtsmann”(あしたサンタクロースがやって来る) というクリスマスの歌となって普及した。ドイツ国歌の詩を書いたことで知られるファラースレーベン Hoffmann von Fallersleben, 1798-1874 が 1840 年

頃書いた詩という。

Morgen kommt der Weihnachtsmann

Morgen kommt der Weihnachtsmann,
Kommt mit seinen Gaben.
Trommel, Pfeife und Gewehr,
Fahn und Säbel und noch mehr,
Ja ein ganzes Kriegesheer,
Möcht' ich gerne haben.

明日サンタクロースがやって来る

明日サンタクロースがやって来る
プレゼントを持ってやって来る
太鼓と笛と鉄砲も
旗とサーベル それからもっと
そう 兵隊を一連隊
くれたらいいのにな。

2 番以下略

このほかオランダではジンを飲んだくれるおばさんの歌になったりしているが、これ以上は触れない。

それらの歌以上に、このメロディーを有名にしたのは、モーツァルト W.A. Mozart, 1756-1791 のピアノ変奏曲だろう。《きらきら星変奏曲》K.265 は、全集では《“Ah vous dirai-je maman”による 12 の変奏曲》というタイトルになっているが、1785 年にウィーンで出版されたときのタイトルは、単に *Airs Variée* (フランス語で変奏曲) だったらいい。普通に考えればフランスに行ったときに書いたと考えられるので、1778 年パリで書かれたとされ、K.265 という番号がつけられたのであるが、その後の研究で 1781-82 年にウィーンで書いたと訂正された。ケッヘル第 6 版では 300e という番号に変更になっている。

4. 《すずめのおやど》がこの歌詞で教科書に載ったのは、戦後の教科書『一ねんせいのおながく』1947 である。しかし、明治 20 年、音楽取調掛編纂(実質的には伊沢修二の編集)『幼稚園唱歌集』1887(官製の幼稚園用唱歌集としては最初の本)に《進め進め》のタイトルでこの曲が載せられている。作詞は音楽取調掛の加部厳夫(かべいずお)。もっとも、この曲は『小学唱歌集』初編の曲とともに、1882 年(明治 15 年)には披露されていて『唱歌略説』でも述べられている。なぜ『小学唱歌集』に収録されなかったのかは、今のところ不明である。

『幼稚園唱歌集』と『一ねんせいのおながく』との二つの歌詞を示す。

進め進め 1887

すすめすすめ。あしとくすすめ。
とまれとまれ。いちどにとまれ。
とまるもゆくも。教えのまゝに。
たつもあるも。をしへのまゝに。
咲花も。鳴鳥も。面白き花園や。
すすめすすめ。あしとくすすめ。

すずめのおやど 1947

すずめすずめ お宿はどこだ
ち ち ち ち ち ち こちらでござる
おじいさん よくおいでご馳走いたしましょう
お茶にお菓子 おみやげつづら
さようなら帰りましょう ご機嫌よろしゅう
来年の春も またまた参りましょう

2 番略

「すすめすすめ」が「すずめすずめ」になってしまったわけで、もともと替え歌だったものが、教科書に載ったのである。いつごろ替え歌《雀のお宿》が歌われはじめたかはわからない。ただ、替え歌にされるほどに『舌切り雀』の話が世に広まったのは、明治から大正期の児童文学者巖谷小波（いわやさざなみ）1870-1933 がおとぎ話のシリーズを出した 1890 年代半ばより後と推測される。もちろん、誰が替え歌を作ったかなどは不明である。

さて、その《進め進め》のもととなったのは、アメリカの曲で《Children go to and fro》という曲。齋藤基彦という人の『日本初の官製「幼稚園唱歌集」』によれば、《蝶々》のところで述べたローウェル・メーソンが編集した“The Juvenile Singing School” 1837? などいくつかの本に載せられている。（原譜は未確認）。ただ、ほぼ同じ歌詞が 1830 年にボストンで出版された“The Child's Song Book: for the use of schools and families”では、異なるメロディーになっている。従って、歌詞とメロディーとが別の起源を持っていることは確かだが、どちらも起源の確認まではできていない。このメロディーとこの歌詞が結びついた楽譜は、今のところ、前掲のローウェル・メーソン“The Juvenile Singing School”より古いものは見つかっていないようである。

《Children go to and fro》には、述べたように多くの楽譜があるが、今日の演奏は、イギリスの作曲家フェルディナンド・ドゥルケン Ferdinand Quentin, 1837-1902 が 1877 年米国で出版した《Golden Childhood》op.124-9 の児童合唱用編曲に基づいて 2 重唱で歌う。

Children go to and fro

Children go, to and fro
in a merry, merry row
footsteps light, faces bright
tis a happy, happy sight,
holding fast each others hand
We're a little happy band
follow me, full of glee
singing, singing merrily.

子どもたち進め

子どもたち進め、前へ後ろへ
列を作って 愉快的行進
足取り軽く、輝く笑顔
それはとっても楽しい眺め
さあ他の人と手をつなぎ
皆で小さな幸せ隊
私に続け 喜びいっぱい
歌おう歌おう愉快地に歌おう

《進め進め》の歌詞は、この詩からの翻案であろうが、ずいぶん固いものになってしまった。「唱歌」のもつ「教育的」側面が表れたものと言えよう。また、だからこそ替え歌が作られたのかもしれない。

なお、このメロディー、日本と米国以外、ヨーロッパではほとんど知られていない。ところが、『一ねんせいのおながく』は、作曲フランス民謡としている。おそらくこれを根拠に、金田一晴彦他編の『日本の唱歌』1977も、原曲フランス民謡としている。伊沢修二の『唱歌略説』は「何者ノ作タルヲ知ラズ」としているし、堀内敬三他編の『日本唱歌集』1958は、アメリカの子どもの歌としている。『一ねんせいのおながく』は、『ちょうちょう』でドイツ民謡という「正解」を出しているのです、フランス民謡とする根拠も何かあったのかも知れない。ただし、今のところは、その根拠は不明である。

5. 《蛍の光》も世界的に有名な曲。《蝶々》とおなじく『小学唱歌集』1882に載せられている。日本ではその歌詞のせいもあり卒業式の曲として主に使われてきたが、英語圏では新年のカウントダウンソングとして使われるのが最もポピュラーという。おとなり韓国では、朝鮮戦争後の短い時期、国歌の役を担っていたというし、オランダではサッカーの歌だという。日本で同じく卒業式の歌としてポピュラーな《あおげば尊し》(原曲米国)が、日本以外ではほとんど識られていないのとは好対照である。

唱歌《蛍の光》(『小学唱歌集』での題名は《蛍》)の作詞は音楽取調掛員・東京師範学校教諭の稲垣千穎 1845-1913(いながきちかい)。稲垣は国学者で文語に堪能、この詩も中国の故事に始まり、かけことばなどを使ったなかなか凝った詩である。稲垣はこのほかにも《うつくしき》(うつくしきが子やいづこ；スコットランド民謡 The blue bells of Scotland)など『小学唱歌集』初編の大半の詩を書いている。

ただ、《蛍の光》の詩が稲垣千穎の手になることは、長らく明らかにされていなかった。『小学唱歌集』には(後の文部省唱歌もそうであるが)作曲者や作詞者の名は載せられていない。戦後の教科書や『日本の唱歌』1977などでは作曲者、作詞者名が載せられているが、『小学唱歌集』所載の作詞作曲者名の主な根拠となったのは、伊沢修二が書いた『唱歌略説』であった。『唱歌略説』ではたいてい、歌詞を載せた後、作詞者、詩の解説、最後に曲の解説という順になっているが、『蛍ノ光』では、「此曲ハ蘇格蘭土ノ古伝ニ出テ」といきなり曲の説明から始まっている。この理由は、『唱歌略説』という文書が、音楽取調掛の報告会のいわばプログラム解説で、『蛍ノ光』が最後の大会奏であったという成り立ちによるのかも知れない。もう一つ考えられるのが、『蛍ノ光』の略説は、すでに報告会の前年東京日日新聞に出ていて稲垣の作と発表されているので、再度書く必要はないと考えたという理由である。いずれにしても、このよく知られた曲の作詞が稲垣千穎

であるということはほとんど知られずに 100 年ほどが過ぎることになってしまった。

『小学唱歌集』に載せられた《蚩》には 3 番 4 番までである。3 番は筑紫やみちのく、4 番は千島や沖縄と領土問題も絡む歌詞なので、戦後は 2 番までしか歌われなくなっている。また、これらの歌詞をめぐって、出版までに音楽取調掛と文部省の間で交わされたやりとりも残っており、最初は《ホタルノアカリ》だったことなど、おもしろい話があるが、ここでは詳しくは触れない。

「原曲」の方であるが、有名な曲だけに多くの研究がなされている。この曲がスコットランド民謡《Auld lang syne》であることは、世界中で認められている。この歌詞がこの曲と結びついた最初が、ジョージ・トムソン編集の“A select collection of original Scottish airs” 1799 版であることも確認されている。歌詞は、スコットランドの詩人口バート・バーンズ Robert Burns, 1759-1796 の作あるいは改作である。

ジョージ・トムソン Thomson, George, 1757-1851 は、スコットランドの事務官僚で、アマチュアの音楽家でもあった。彼は、スコットランドの民謡に興味を持ち、その「改良」と出版を計画した。そしてスコットランドの国民的詩人口バート・バーンズに協力を依頼する。1793 年に最初のスコットランド民謡集を出版、1796 年にバーンズは亡くなるが、その後も編集と出版を続けた。それらのうち 1799 年のものにこの《Auld lang syne》がはいっている。

トムソンは、「歌うに値しない」歌詞を「改良」したり、既存の民謡のメロディーに新しい歌詞をつけたりした。民謡をあるがままの姿で採集しようという近代科学的態度は、早くとも 19 世紀はじめのグリム兄弟からであり、そのような態度が主流となるのは 19 世紀後半以降である。トムソンのような態度は、当時としては当然のものであった。（日本でも 1880 年頃、伊沢修二は俗曲の「改良」を計画したくらいである）

バーンズも民謡には強い興味を抱いていた。自ら民謡を採集し、トムソン他の編集者に供給している。《Auld lang syne》の詩も、バーンズが採集した詩でありオリジナルではないが、どの程度バーンズの創作が入っているか直接知ることにはできない。

James Dick という人の“Auld lang syne : its origin, poetry and music”によれば、歌詞《Auld lang syne》の萌芽は 16 世紀に見られ、1711 年の出

版物にはバーンズの第一節と極めて似た詩が収録されている。メロディーの方は、17 世紀からダンス音楽として様々なタイトルで現れ、18 世紀の末には異なる歌詞で民謡集にも入っている。これを結びつけて現在の《Auld lang syne》にしたのは、トムソンであることはほぼ間違いないという。さらに、古い《Auld lang syne》のメロディー（おそらくバーンズが頭に描いていたメロディー）も研究されており、CD など出されている。

さて、トムソンのスコットランド民謡集の出版は、まだ続く。1799 年にバーンズに依頼した民謡の出版が一段落すると、今度は音楽の方も「改良」しようと考えた。新しく作曲するというわけではない。歌詞を国民的詩人に依頼したのと同様、有名な作曲家に編曲を依頼したのである。そこで目をつけたのが「交響曲の父」ハイドン Joseph Haydn、1732-1809、ハイドンは 1791 年から 1795 年にかけての 2 度のロンドン滞在中に、ネイピア William Napiar の依頼でスコットランド民謡集を編曲しており、これらは 1791 年から 1795 年にかけてロンドンで出版されていた（通奏低音とバイオリン伴奏）。トムソンは、すでにウィ

ーンに帰っていたハイドンに、自分の曲集の編曲を依頼する。ハイドンは



Robert Burns全詩集の《Auld Lang Syne》の挿絵

John Masey Wright, 1777-1866画 c1841

Wikimedia commons より

1800年から1802年にかけてこれらの編曲を行った。これらは歌にピアノ、バイオリン、チェロの伴奏がついている。トムソンは1801年から1805年にかけて、これらの曲を出版した。ハイドンだけでなく、フランスやチェコの作曲家に依頼した編曲も含めての出版である。1791年に出版されたネイピアの楽譜が通奏低音（ハーブシコード）だったのに対し、ピアノ伴奏になっているのは、丁度この頃ピアノが普及してきたことを物語る。また、ピアノ・チェロ・バイオリンの3重奏は中流以上の家庭での家庭内コンサート定番であったらしい。

トムソンは、さらに新しい出版を企画し続ける。スコットランド民謡集にまぜて、アイルランド民謡、ウェールズ民謡なども出す。新しい作曲家としてベートーベンやウェーバーにも編曲を依頼する。トムソンとベートーベンとの交渉は、クーパー Cooper, Barry という人が詳しく調べて本を出しているが、それによると、交渉は1803年（ベートーベンが交響曲第3番《英雄》を書いた頃）に始まった。最初はスコットランド民謡を主題としたソナタや室内楽の作曲を依頼したが、実現しなかった。民謡編曲の打診は1806年にあり、43曲の楽譜を送って依頼したのが1809年9月。ベートーベンはその年の11月、ピアノ協奏曲第5番《皇帝》を書き終えた頃、編曲を始め、1810年の7月には、追加された10曲を含め53曲の編曲を終わってトムソンに送った。トムソンの指示により、写譜を含め3セットを別々のルートで送るという念の入れようであったが、ひとつもエディンバラに住むトムソンに届かなかった。ナポレオン戦争のもっとも激しい頃（この年の5月ナポレオンがウィーンに入城している）で、イギリスとヨーロッパ大陸間の運送事情はかなり悪かったようである。結局ベートーベンから別の写譜を再送してトムソンが受け取ったのは1812年8月のことであった。

トムソンはベートーベンに対し当初43曲で100ドゥカーテンという条件を提示した。現在の日本円で言えば数十万から百万円くらいであろう。ベートーベンも、ソナタよりはつまらない仕事であるが、ビジネスとしては良い仕事だと答えたという。しかし送る段になると120ドゥカーテンを要求し、結局、追加10曲を含めた53曲に対し150ドゥカーテンで決着した。これは、トムソンが楽譜を受け取るより前、ベートーベンが送付した時点で支払われている。その後の仕事でも、ベートーベンは何度が賃上げを要求している。（ちなみに、トムソンとベートーベンのやりとりは主に、当時の国際語であったフランス語でおこなわれている。）

トムソンは結局1819年まで十数回にわたって楽譜を送り、ベートーベンも総計百数十曲を編曲した。《Auld Lang Syne》は、トムソンが1818年6月

に編曲を依頼した 8 曲に含まれており，11 月には編曲が終わってトムソンに送付した。このときはすでに戦争が終わっており，12 月にはトムソンのもとに届いている。ちなみにこの時の編曲料は 8 曲で 40 ドゥカーテンであり，単価は最も高い。平和になって英国ポンドが高騰した時期であるためトムソンも鷹揚になったらしい。

トムソンは，ベートーベンから受け取った曲をそれまでに他の作曲家に依頼した編曲とあわせて何回にも分けて出版している。《Auld Lang Syne》は，なかなか出版されずにトムソンの手元にあり，結局ベートーベンが亡くなった 15 年も後の“ The Melodies of Scotland ” 第 6 巻 1842 ではじめて出版されたとなっている。1838 年から出版したこのシリーズは英国図書館の目録でも，米国議会図書館の目録でも 5 巻までであり，第 6 巻の所在は今のところ確認できていない。本日演奏するベートーベンの全集版は，ベートーベンの手元に残った手稿にもとづいている。

バーンズがトムソンに送った歌詞は「スコットランド語」で書かれている。といってもスコットランド古来のゲール語ではなく，スコットランド英語で，バーンズの詩は多くこれで書かれている。発音，綴り，語彙の点で現代の英語とはかなり異なるところが多い。今日の演奏では，スコットランド英語の発音によるが，おもに発音記号にたよった発音なので，十分な原語の再現にならない点はご容赦いただきたい。

Auld lang syne

Should auld acquaintance be forgot,
and never brought to mind ?
Should auld acquaintance be forgot,
and days o' lang syne?

CHORUS

For auld lang syne, my dear,
for auld lang syne,
we'll tak a cup o' kindness yet,
for auld lang syne!

And surely ye'll be your pint-stowp!
and surely I'll be mine!
And we'll tak a cup o' kindness yet,
for auld lang syne.

CHORUS

For auld lang syne, my dear, ...

We twa hae run about the braes,
and pu'd the gowans fine ;

過ぎ去った日々

昔の知り合いを忘れ、
思い出すこともなかったって？
昔の知り合いを忘れる？
そして懐かしい日々も？

〈繰り返し〉

過ぎ去った日々のため，友よ
楽しかった昔のために，
友情の 1 杯を飲もうじゃないか，
過ぎ去った日々のために。

君はきっと 1 パイントのビールだね！
もちろん 私もだ！
そして 友情の 1 杯を飲もうじゃないか，
過ぎ去った日々のために。

〈繰り返し〉

過ぎ去った日々のため，友よ...

丘の斜面を 走り回ったな，
そしてすてきなデイジーを摘んだ，

But we've wander'd mony a weary foot,
sin auld lang syne.

CHORUS

For auld lang syne, my dear, ...

でも疲れた足でさまよいもした、何度もな
ずっと昔のことだ。

〈繰り返し〉

過ぎ去った日々のため、友よ...

(歌詞の順序は Burns の版による。4 番以下略)

さて、『小学唱歌集』にのった稲垣千穎の《蛍》の歌詞(1, 2 番)は、つぎのようになっている。「いつしか年も。すぎのとを」は、「いつしか年も過ぎ」と「杉の戸を開けて」のかけことば。「かたみに」は「互に」。「こころのはしを。ひとことに」は「心の一端をただ一言で」。「さきく」は「無事に」。

蛍

ほたるのひかり。まどのゆき。
書(ふみ)よむつき日。かさねつゝ。

いつしか年も。すぎのとを。
あけてぞけさは。わかれゆく。

とまるもゆくも。かぎりとして。
かたみにおもふちよろづの。

こころのはしを。ひとことに。
さきくとばかり。うたふなり。

3 番以下略

(宮澤 彰, 歌詞翻訳: 宮澤 彰, 宮澤 友子)

Thanks to:

国立国会図書館

東京学芸大学附属図書館

東京芸術大学附属図書館

宮澤 友子

その昔...縁側で童謡の本を1人で歌っていた女の子。はじまり...勤め先の旭硝子コーラス部。皆、年取っても素敵な仲間。その次...栗山文昭氏指揮、女声、混声合唱団で20数年。合唱漬け、様々な舞台。濃い仲間と、生涯の伴侶との出会い。わかれ道...大規模化、商業化を離れ、個の自立。ムズカシイ少人数活動。そして今...最小単位から再スタート。共に歩んでくれている宮澤彰、荻堂綾（発声）、長崎麻里香のお三方が、今の私の先生。そして、ありがとう、仲間たち。

宮澤 彰

学生時代から合唱を始める。東京大学柏葉会合唱団で学生指揮者。中世音楽合唱団、クール・プリエール、東京オルフェオンに所属、合唱団OMPで団内指揮者を17年つとめる。声楽を築地文夫氏、石野健二氏に師事。

大場 点

1987年千葉大学大学院理学研究科修了。千葉大学合唱団学生指揮者、コーロ・カロス団内指揮者を務め、その間、合唱指揮者栗山文昭氏のもとで研鑽を積む。1998年に混声合唱団「クール・ルシャン」を創設し、指揮者に就任。指揮活動の他、器楽曲や歌謡曲などの合唱用編曲や、チラシ・プログラム等のデザインなど、マルチな活動をこなす。今回はひさしぶりの「歌」に挑戦。

長崎 麻里香

パリ・エコール・ノルマル音楽院コンセルティストディプロム取得。パリ国立高等音楽院を満場一致の最優秀の成績で卒業。F・ブーランク国際ピアノコンクールにてブーランク作品優秀賞、サン・ノム・ラ・ブルテッシュ国際ピアノコンクールにて最年少優秀賞を受賞。パリ、サル・コルトーでのソロリサイタル、A・コルトー記念演奏会、その他欧米各地での演奏会に出演。ソロのみならず、室内楽奏者、伴奏者としてのコンサートにも多数出演し、共演者からも厚い信頼を得ている。

長崎麻里香公式ウェブサイト <http://marikanagasaki.com>

佐々木 晃

幾重ものご縁があって皆さんとご一緒できることになりました。
よろしくお願いします。

大崎 麻里

桐朋学園大学音楽学部声楽科を卒業。日本と英国で主にアンサンブルにて活動を行う。近年はチェロ奏者として、オーケストラやアンサンブルで活動している。声楽を唐津東流、チェロを平井丈一朗、平野知種各氏に師事。

Thanks to

川里 久雄
川里 洋子
松井（荻堂）綾
松井 武臣
堀切 由美子
渡部 千賀子(ドイツ語指導)
鈴木 利一(表紙 絵)
狩野 寛
隈 晶子

2012-02-05 Ensemble SolLa3(横浜みなとみらいホール:レセプションルーム)で戴きました木戸銭 17,000 円は, 2 月 7 日に朝日新聞厚生文化事業団あて寄付いたしました。なお, 今回の木戸銭も, 全額を被災地域の子ども支援に寄付させていただきます。

アンサンブル ソラ
Ensemble Sol La 4

at 横浜市イギリス館ホール